

令和4年度学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校生徒は礼儀正しく、意欲を持って何事にも真摯に取り組むが、一方でさらなる自主性、主体性が望まれる状況にある。そこで、生徒が自分の能力・適性等を的確に把握し、高い目標を掲げ、意欲的に学習活動や学校生活に取り組むことを促す取り組みを継続している。今年度の具体的重点目標としては、「家庭学習の充実と教師の授業力向上」「基本的生活習慣の改善」「健康的な環境づくりに努める知識や能力の向上」「生徒一人ひとりの適性に応じた学習・進路指導」「学校行事への主体的な取り組みと生徒規約の見直し」「科学的思考力の習得」を掲げた。

自己評価では、10分野15項目（今年度から重点課題「科学的思考力の習得」に普通科の評価が1項目増）の目標について、Aが5項目、Bが8項目、Cが2項目であった。評価Bとなった項目が昨年度より大幅に増加した。〔家庭学習の充実〕「健康的な環境づくり」の2項目については評価Cとなった。家庭学習については、今年度から55分授業×6時限となり、放課後の時間が確保されたこと、および自学講座の中止等もあり、家庭学習の質的向上や学習総量の増加が期待された。しかし、生徒の達成度は前年度より微増程度であった。部活動の活動時間が長くなったことや休日の活用についての考え方が曖昧な状態であったことが要因としてあげられる。生徒には面接等で学習時間の確保や休日の活用について指導助言する必要がある。次にスマートフォンについては、コロナ禍の3年間でその利用法について変化してきている。保護者の意見の中には学習に有益な使用例についての言及があり、家庭と連携しながらよりよい指導に結び付けていきたい。評価Aのついた「授業力の向上」「学校行事への主体的な取り組み」「探究学習における課題発見力・論理的思考力の育成」「意欲的学習態度の育成」については、継続的取り組みが成果をあげている。生徒の意欲を大切に、引き続き改善を図っていきたい。

7 次年度へ向けての課題と方策

今年度から変更した55分授業については、教員および生徒の半数以上が賛成とした。しかし、生徒の学習時間があまり増えず、部活動時間だけが長くなった等の意見もある。また、今年度は自学講座を中止したが、その影響や実施の是非については議論されていない。次年度中に方向性を決定し、実施となれば、詳細なところまで決めておくことが求められる。真に必要な部分に注力できるよう、議論を重ね、教職員間の連携、学校と保護者の連携を深めなければならない。